



認め合い高め合い支え合う学校で
夢と理想を掲げ、よりよい社会を創造する西中生を育てます！

校長 篠田 豊和



「よりよい社会を創造するために」

新緑がまぶしい季節となり、気温もずいぶんと高くなってきました。今年度も早一ヶ月がたち、新入生も部活動に入部し、先輩の後を必死に追いかけています。

さて、4月14日から続く熊本地震では多くの方が犠牲となり、度重なる余震で自宅に帰れず避難生活が続いている方が大勢います。私たちが東



日本大震災を経験し、この熊本地震も他人事ではありません。このような大きな災害があるたびに考えさせられるのは命の大切さとともに規範意識や道徳心についてです。

いつも海外メディアに取り上げられるのは、日本人の道徳性の高さです。一人の命を助けるための懸命の救助作業のようす。水や食料の配給を整然と並んで待つ姿、狭い体育館や駐車場でも多くの方が過ごせるように譲り合う姿、声を掛け合い、助け合う姿は素晴らしいものです。

これは長い間受け継がれてきた伝統的な国民性であり、家庭・地域、そして学校での教育により培われた規範意識や道徳心なのでしょう。



学校、特に中学校では当然今もそのような規範意識や道徳的な実践力を身につけさせるための教育にも力を入れています。あいさつや返事、公共のルール・マナー、助け合い、TPOをわきまえた行動がとれる力を身につけさせることを意識しています。例えば、授業中や会議中の廊下を移動する時はどうすればよいか。

健康診断の時はどういう態度がいいのか。言葉づかい、話し合いのルール、公共施設・設備の使い方等々。

更に、命の大切さについては、今の3年生が救急救命講習を受け、AEDの操作方法を含めた救命法を学び、中学生でも命を助けることができることを学んでいます。本校のすぐ近くの行田市消防署西分署からは毎日救急車が出動している様子も西中生はよくわかっています。

「よりよい社会を創造する西中生」として規範意識を高め、そして自他の命を大切にできるよう今後も指導してまいります。保護者・地域の皆様も、中学生のよきアドバイザーとして範を示していただければ幸いです。



「気持ちは姿勢に表れる」 ～3年生の授業態度から～

先日、学力テストを実施しているときの生徒の様子をのぞいてみました。すると3年生の雰囲気は昨年度と違います。緊張感とか、ひたむきさを感じました。しかしそれだけではありません。毎日の授業中の雰囲気も一気に変りました。さすが西中の3年生です。よく見てみると、授業中の「姿勢」がいいことに気が付きました。椅子の座り方、黒板や発表者の見方や聞き方、鉛筆の持ち方、教科書などの開き方がしっかりしていました。3年生になったという意気込みが、きちんと形になって表れています。下級生にもぜひ見習ってほしいものです。

